

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第18週 (5/3-5/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	18週	17週	16週	15週
小児科	17	13	17	17
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	27	19	27	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	5/3-5/9	4/26-5/2	4/19-4/25	4/12-4/18	4/26-5/2
			18週	17週	16週	15週	17週
小児科	RSウイルス感染症	○	3 0.18	0 0.00	2 0.12	4 0.24	3 0.03
	咽頭結膜熱		0 0.00	1 0.08	5 0.29	1 0.06	11 0.09
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2 0.12	5 0.38	5 0.29	5 0.29	53 0.44
	感染性胃腸炎		27 1.59	29 2.23	27 1.59	34 2.00	292 2.43
	水痘		2 0.12	0 0.00	1 0.06	2 0.12	15 0.13
	手足口病		0 0.00	1 0.08	0 0.00	1 0.06	1 0.01
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.12	5 0.04
	突発性発しん		8 0.47	12 0.92	12 0.71	11 0.65	61 0.51
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.15	1 0.06	4 0.24	5 0.04
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.20	1 0.20	6 0.18
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(133件)

※新型コロナウイルス感染症127件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	侵襲性肺炎 球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の分離・同定
結核	女性	80歳代	病原体等の検出		女性	40歳代	
ウイルス性肝炎	男性	20歳代	IgM HBc抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定	-	-	-	-
				-	-	-	-

・第18週は、結核2件(53)、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)1件(3)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(5)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(8)、新型コロナウイルス感染症127件(4160)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第18週のコメント

<RSウイルス感染症>前週より増加した。過去10年の同時期と比べると多い。区別の発生状況は緑区からのみの報告で、年齢階級別では6-11か月で多く発生報告があった。

<ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)>

全国の第17週時点の届出累積数は66件で、過去5年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、東京都が22件と最も多く、他の都道府県はいずれも5件未満となっています。千葉県は2件の報告となっています(いずれも千葉市)。

千葉市では第18週に届出が1件あり、2021年の累積報告数は3件となりました。月毎の累積数を比較すると、過去5年の平均+2SDを上回っており、とても多いペースとなっています(図1)。3件はいずれも男性で年齢階級は20歳代及び30歳代となっています。

2016年から2021年第18週までに10件の届出があり、2018年及び2019年は届出がありませんでしたが、2020年には4件の届出があり、過去5年で最も多くなりました。病型別ではB型が9件(90.0%)、サイトメガロウイルスが1件(10.0%)となっています(図2)。全て男性で、20歳代から50歳代までで、20歳代が最も多く4件(40.0%)となっています(図3)。感染経路は、性的接触が6件(60.0%)で、パートナー別では異性間が5件(83.3%)、同性間が1件(16.7%)となっています。B型9件の遺伝子型は判明したものでAが3件(33.3%)、B及びCが1件ずつ(11.1%)となっています(図4)。

我が国の肝炎(ウイルス性肝炎)の持続感染者は、B型が110万人~140万人、C型が190万人~230万人存在すると推定されていますが、感染時期が明確ではないことや自覚症状がないことが多いため、適切な時期に治療を受ける機会がなく、本人が気づかぬうちに肝硬変や肝がんへ移行する感染者が多く存在することが問題となっています。一方で、症状が軽いうちに治療をすることで、肝硬変・肝がんといった重篤な病気を防いだり、進行を遅らせることが可能です。黄疸等の症状がなくても、全身のだるさ・食欲不振があるような方は、一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けることをお勧めします。

千葉市では、B型肝炎については、平成28年10月1日から本市に住民登録をしている1歳未満を対象に定期接種になっています。また、過去に肝炎検査を受けたことのない方を対象に、肝炎検査を行っています。詳細は、「B型肝炎予防接種 千葉市」「肝炎対策 千葉市」で検索するとそれぞれ最初にリンクが出てきますので、リンク先をご参照ください。

「B型肝炎予防接種」

(<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/hokenjo/kansensho/bgatakanen.html>)

「肝炎対策」

(<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/kannenn.html>)

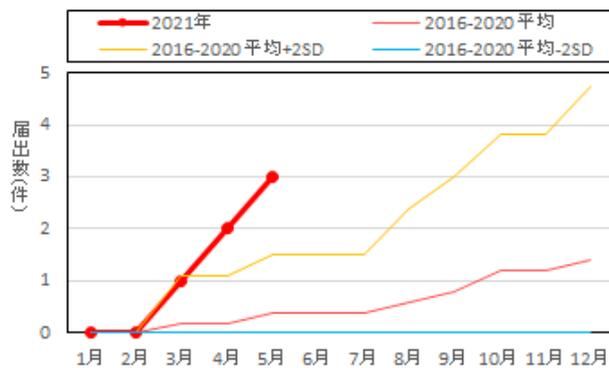


図1 過去5年との比較 (月別 2021年第18週現在)

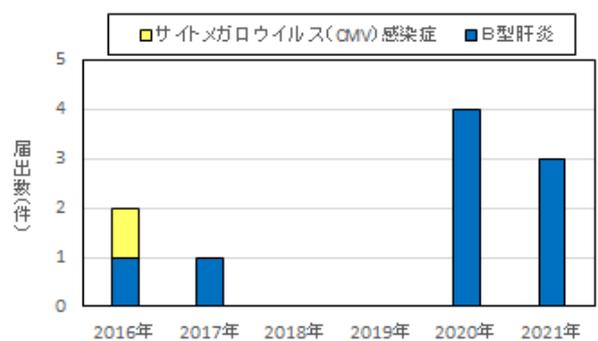


図2 年別・病型別発生届出数 (2016年~2021年第18週 n=10)

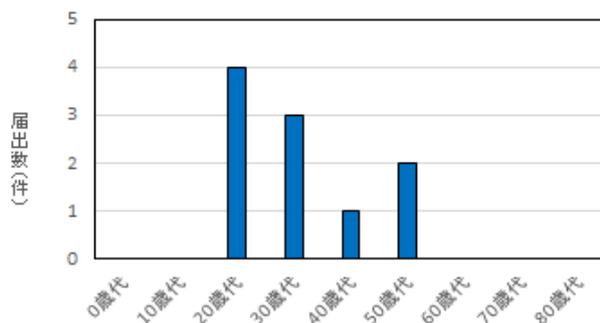


図3 年齢階級別発生届出数 (2016年~2021年第18週 n=10)

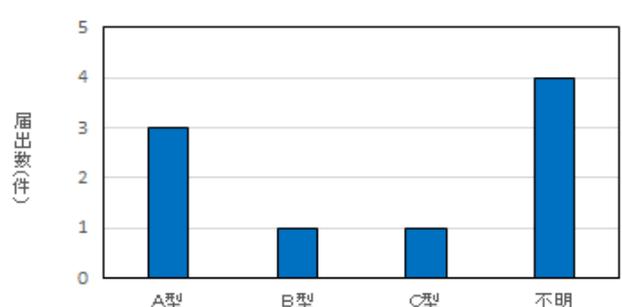


図4 B型肝炎の遺伝子型届出数 (2016年~2021年第18週 n=9)